

国名(日本語)	東ティモール民主共和国
国名(英語)	The Democratic Republic of Timor-Leste



国名の由来	「東」という意味のティモール島に由来する。16世紀にポルトガル人がティモール島を征服、その後ポルトガルとオランダによって東西に分割統治された。第二次世界大戦後もポルトガルによる支配が続いたが、1975年に東ティモール民主共和国として独立、翌76年インドネシアに併合された。分離独立闘争を経て2002年に独立した。
国旗の由来	黒は4世紀にわたる植民地時代の苦難を表し、白い星は、未来に対する望みを象徴している。黄は矢尻を描いており、独立のための戦いを、また赤は東ティモールの人々が流した血と犠牲を表している。2002年の独立と共に掲げられたこの国旗は、インドネシアに併合される前年の1975年11月に独立派の人々によって作られたものである。
1 面積	約1万4,900平方キロメートル(東京、千葉、埼玉、神奈川の合計面積とほぼ同じ大きさ)
2 人口	約121.2万人(2014年 世界銀行)
3 首都	ディリ
4 言語	国語は、テトゥン語及びポルトガル語。実用語に、インドネシア語及び英語。その他多数の部族語が使用されている。
5 宗教	キリスト教99.1%(大半がカトリック)、イスラム教0.79%
6 豆知識	輸出用作物として特にコーヒーの栽培に力を注いでいる。